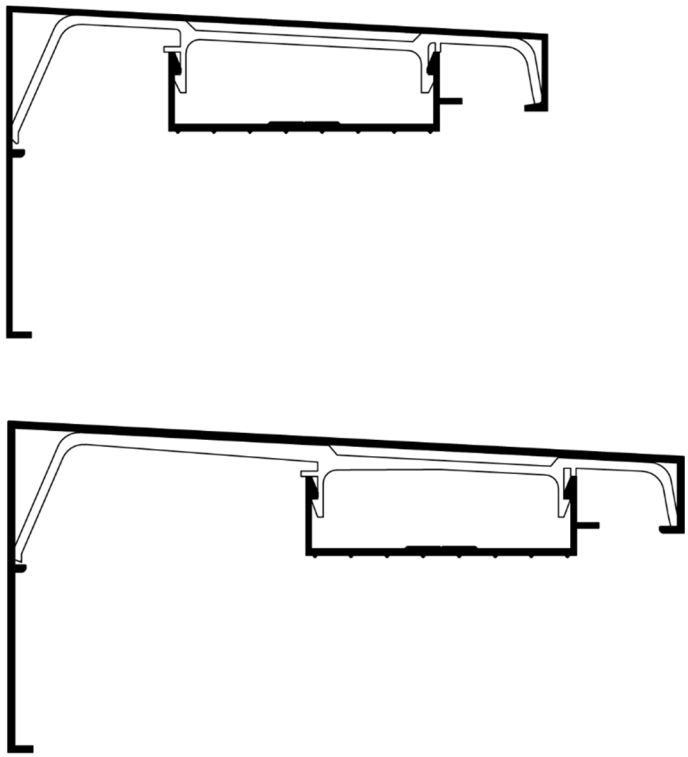
白水興産株式会社

アルミエッジ笠木　『ＰＥ』
施工手順書

アークエッジシリーズ　　ＰＥ(押出形材エッジ笠木・ホルダー(通し材)タイプ)

製品名：ＰＥ-１２０／ＰＥ-１５０



目次

当社標準仕様 …… 2頁

PE シリーズについて …… 3頁

アンカー穴あけ …… 4頁

ホルダー取付 …… 5頁

ブラケット取付 …… 6頁

本体取付 …… 7頁

下地がスチールの時の取付ねじの選定について …… 9頁

安全上のご注意

・商品を安全に施工していただくため、施工前に当施工手順書をよくお読みいただき、不具合のないように正しく施工してください。
・製品をお取り扱いの際、落としたりぶつけたりしないでください。キズやへこみなどの製品損傷や、作業者のケガに至る場合があります。
・施工手順書に記載された以外の施工内容、又は建物の設計・施工に起因する不具合や損害に関して責任は負えません。

当社標準仕様

1.ブラケット標準固定間隔に対する耐風圧

1)下地材がRCの場合、3900N/㎡（3900Pa）

基準風速Vo:34m/ｓの地域において高さ30m以下(10階建程度）、地表面粗度区分:Ⅲ(一般的な市街地*)

縁あき寸法　PE-120は35mm以上、PE-150は33mm以上

※タイルやモルタルは含まない寸法です。(P.4参照)

* 対：一般的な市街地とは…大河川や海岸など風通しの良い場所以外の地域

2.固定方法

不陸調整は10mm程度

下地材	アンカー(付属品)	材質	ビス	樹脂プラグ	アンカー用下穴	
					径	深さ
RC	B-M8W	SUS	なべ頭タッピング 6×60	フルシダー社 TU 8×40	8.0	60
鉄板 (t=3.2以上)	NB-14	SUS	六角ドリルねじ 5×40	無し	下穴不要	
	NB-15	SUS	なべ頭ドリルねじ 5×35			
鉄形材 (t=2.3以上)	NB-14	SUS	六角ドリルねじ 5×40			
	NB-15	SUS	なべ頭ドリルねじ 5×35			
鉄形材 (t=6.0以上)	NB-19	ユニクロ	六角ドリルねじ 6×35			

3.固定間隔

ブラケット最大間隔　700mm以内

ホルダー(レール)の最大固定間隔　900mm以内

必要ブラケット数　(個/定尺2m)

品番	ブラケット	アンカー (下地RC)
PE-120	4	3
PE-150	4	3

※取り付け状況により下記確認が必要になります。

・ブラケットの固定間隔、個数

・ホルダー(レール)の固定間隔、アンカーの個数

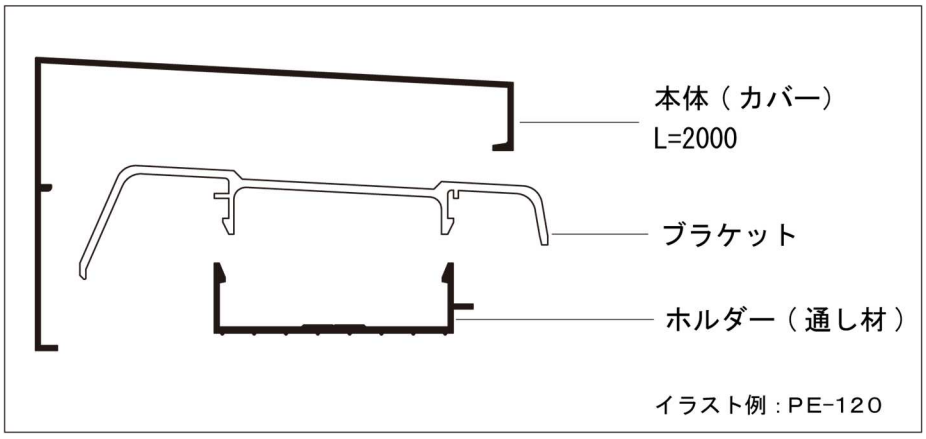
4.当社へお問い合わせください。

1)上記の標準を外れる場合

①耐風圧　②不陸調整　③アンカーの距離

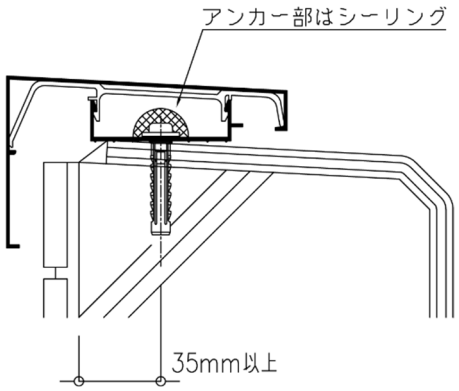
PE シリーズについて

PE シリーズはホルダー・ブラケット・本体で構成されるエッジ笠木です。
端末押さえを兼ねるホルダーが有るため不陸の少ないシート防水系やウレタン防水向きの製品です。



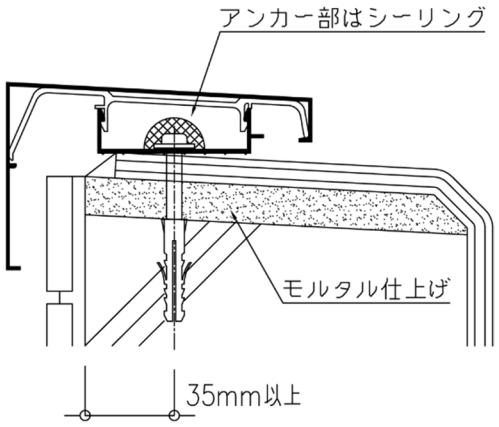
PE-120/150
本体　　L=2000
ホルダー　　L=2000
ブラケット　　4 ケ
※コーナーはブラケット 3 ケ

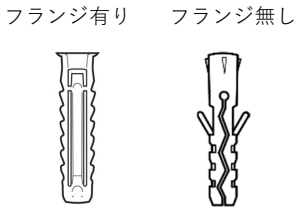
アンカー穴あけ

アンカー	固定強度がブラケット数に反映されるため、当社付属アンカーをご使用ください。
縁あき	アンカーの縁あきは 40㎜ 以上、仕上げ材がある場合でも PE-120 の場合 35㎜ 以上、PE-150 の場合は 33㎜ 以上を確保してください。 
下穴	樹脂プラグ用の下穴はプラグメーカーの指定寸法としてください。
穴あけ後	削粉は十分に除去してください。 （注）：コンクリートの削粉は飛散しない様に速やかに回収する。

※モルタルで嵩上げされている場合

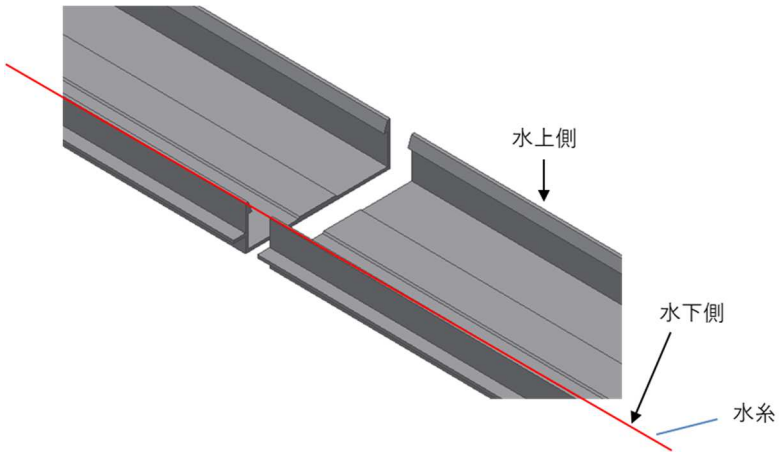
アンカープラグはモルタル層や防水層表面ではなく躯体に効かせてください。
モルタルで嵩上げされている場合は長いプラグを使用するか、フランジ無しプラグ全体をコンクリートに差し込んでください。ねじも長いものを用意してください。





イラストは一例です

ホルダー取付

取付順	コーナー部より始めてください。
水平と高さ	・パラペット天端は手前側に勾配がついているので、スペーサーを使って水平にしてください。ホルダー部分が水平になっていないとブラケット部やジョイント部でカバーが波打ちます。 ・水糸はホルダーの水下側に張って水平と高さを確認してください。 
レベル調整	10㎜程度にしてください。それ以上の時はお問い合わせください。
シーリング材	・防水層に穴を開ける場合、防水材に合ったシーリング材でアンカー頭部をシーリングしてください。

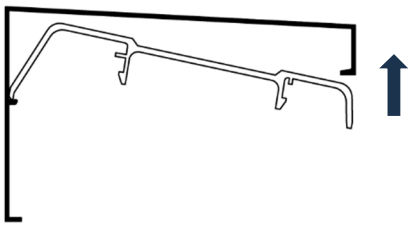
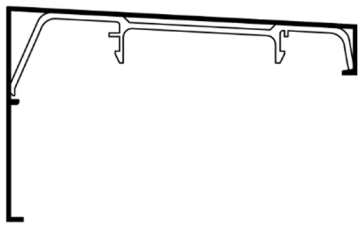
防水の種類とシーリング材の適合例

アスファルト防水	アスファルト系シーリング材
ウレタン防水	ウレタン系シーリング材 変成シリコーン系シーリング材
塩ビシート防水	変成シリコーン系シーリング材
ゴムシート防水	変成シリコーン系シーリング材
FRP 防水	変成シリコーン系シーリング材
改質アスファルト防水	ウレタン系シーリング材 変成シリコーン系シーリング材

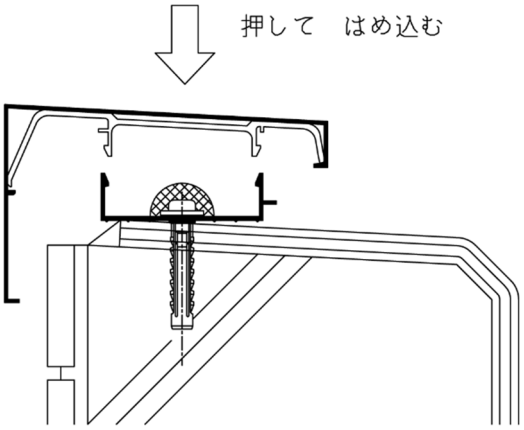
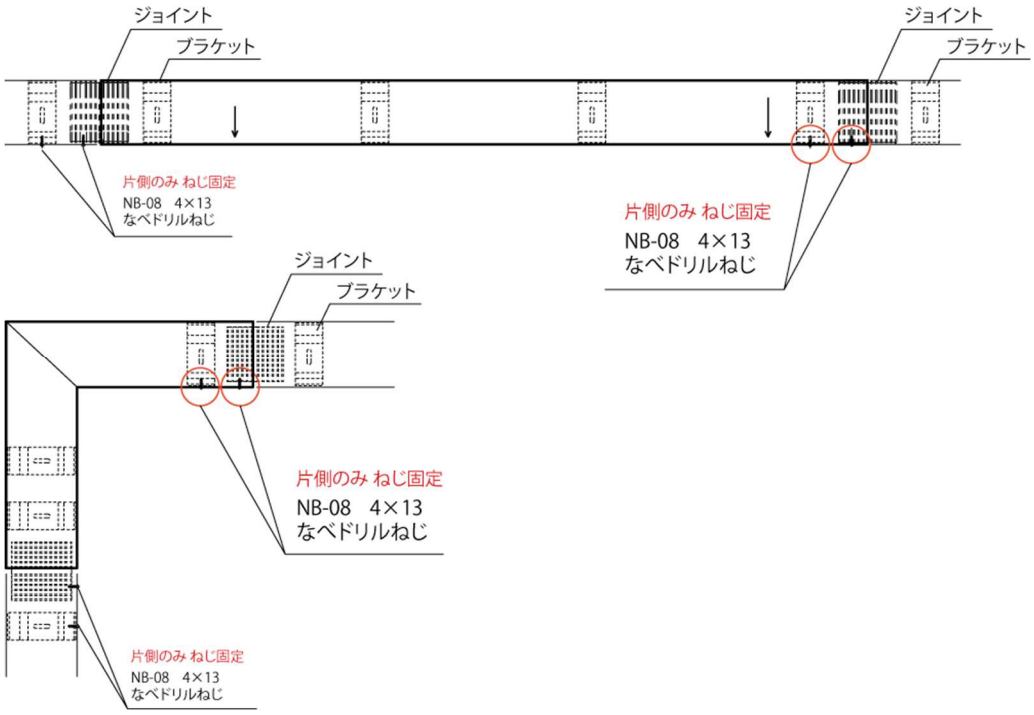
・ホルダーのレベル調整にスペーサーを複数使用した場合、風による振動で抜け落ちる可能性があります。抜け落ちを防止するためシーリング材でスペーサーを一体に固めてください。※スペーサーを半割にして使用した場合はより入念に固めてください。

・アンカー部は必ずシーリングしてください。

ブラケット取付

ブラケット取付	本体にブラケットを取り付けます。外部側を差し込み、内側を押し、はめてください。 ①  ② 

本体取付　(1/2)

本体取付	本体内のブラケットと、ホルダーのかんごうは内側を確認しながらおこなってください。  ・本体の取り付けは手でおこなってください。足で踏む、物で叩く等はしないでください。※無理な取り付けは破損やケガなど事故の原因となります。 ・完全にかんごうされているかを目視だけでなく手で触って確認してください。
ジョイント取付	・伸縮調整幅を 10 ㎜程度設けてください。 ・内ジョイントを正しい位置に取り付けてください。 ・外ジョイントカバーを取り付ける際は両面テープと取付ねじを併用してください。
外れ止め	外れ止めとして、笠木本体端部の片側２箇所(ブラケット 1 ヶ、ジョイント 1 ヶ)に付属ねじ(NB-08 SUS なべドリル 4×13)を止めてください。  (注)アルミ笠木は熱による伸縮が大きいため、ブラケットとジョイントのねじ固定は笠木本体端部のどちらか片側のみとする（両端固定はしない）

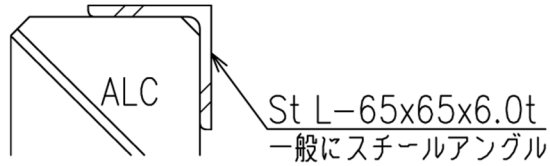
本体取付　(2/2)

完了後	笠木の上に乗ったり、物を置かないでください。
養生フィルムの剥離	元請と協議してから、おこなってください。 ※ただし長期間放置するとフィルムの固着や粘着残りの恐れがあります。

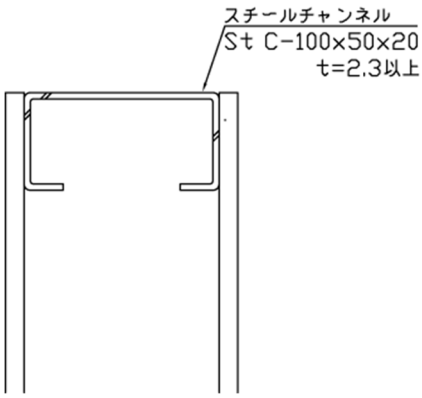
※本体の切断・短尺について

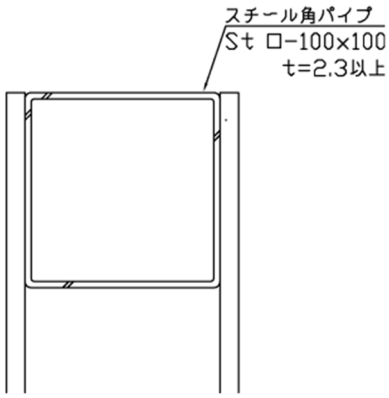
切断	・切断が必要な場合は現場の状況に応じて養生を行った上で作業してください。 ※切粉の飛散等で防水層や仕上げ材に傷がつく事があります。 ・切断面はヤスリを使用し、バリ取りをおこない、損傷の抑制に努めてください。
短尺	短尺(600㎜以下)の本体取付時でも2個以上のブラケットで設置してください。

下地がスチールの時の取付ねじの選定について



取付ねじ	・t=6 ㎜スチールアングルに下端笠木、天端笠木を取り付ける場合 NB-19(ヘックス六角ドリルねじ６×３５ユニクロ)を使用する。 ・下地材が 5 ㎜を超える場合、SUS ねじはせん断破裂(頭とび)が起こる可能性があるので、ユニクロ(鉄)ビスを使用する。





スチールチャンネルや角パイプ t=2.3 の場合

取付ねじ	笠木取付の時 ・B-540H　SUS テックスドリルねじ(六角)使用 ・B-535　SUS テックスドリルねじ(なべ)使用